

緑園学園地域防災拠点の運営委員会対象の訓練が行われました。

訓練内容は、①避難者受付業務、②避難者生活エリア区割り、③はまっこトイレ設営。年度が替わり、新規委員も多いこともあり、小規模の訓練でもありました。

各自所属班のビブス、腕章を受付でもらい、それを装着し、説明会場に集合。まず、各自治会町内会のデジタル簡易無線保有者の確認。委員長挨拶、副委員長が家族のご不幸で欠席のため、林顧問から当拠点の避難所としての開設・運営内容要点・今日の訓練内容の説明。さらに、参加者を3班に分け、順に訓練3か所を巡回する流れを説明。

私は、②避難者生活エリア区割りの説明役を担当。他の訓練の見学も自分の説明部分の写真撮影もできずの状態でした。

### 私の担当した部分についての説明内容について

① 避難者（一般被災者、要配慮者、感染者など）生活のため学校から借用する箇所（アリーナ、図書館、和室、教室）

② 避難所における生活環境整備について（法的根拠と背景）

災害対策基本法に規定されており、それを受け内閣府は「避難所における良好な生活環境の確保に向けた取組指針」（令和4年4月）と「避難所運営ガイドライン」（令和4年4月）を公表。

大規模災害発生の都度、発生する犠牲者、特に折角生き延びた命が、発災後の厳しい生活環境下で発生する災害関連死の発生防止を目指すもの。

避難所の生活環境・衛生環境の向上、避難者の健康管理、避難者の生活スペースの十分な確保、要配慮者・発熱者等への対応に加え、在宅避難者の把握と情報・物的提供の取組みを促している。

③ 生活スペースについて

避難所で避難者が生活する上で、一番大切な場所。横浜市モデルと当学園拠点のモデルを基に、区割りの理由・必要性を説明。

当避難所のメイン避難者生活場所（本番ではメインアリーナだが、今回はサブアリーナを使った）を、A一般世帯ゾーン、B女性優先ゾーン、C男性優先ゾーン、C要援護者ゾーンと大きく区分け。

「食事ゾーン」を同一建屋内だが衛生管理上A,B,C,Dゾーンとは別に設けている。

区割りの目的としては、生活を送る上での女性・子供への暴力防止、男女のニーズの違いへの配慮、被災者の快適な生活をサポートするなどが挙げられます。

- 1, 特定のニーズをもった避難者（障がい者、要介護・介助者、妊産婦、幼児など）別の配慮
- 2, 感染リスク防止・低減
- 3, プライバシー確保（現在の仕組みでは、問題が多いが）
- 4, 避難所運営効率化（各ゾーンに必要な支援、配分、管理など）
- 5, 地域コミュニティ結束で、安心・助け合い・情報共有など

④ ゾーン内の世帯・個人の状態

ゾーン別に色違いのビニールシート（1世帯2人用）を床に敷く（例：A黒、B赤、C青、D黄）

準備されていたのは、1.8m×1.8mを代用（横浜市では生活スペースとして2㎡/人が基準）

数人用テント組立て。1人用（着替え、授乳用）テントは準備・時間不足でできませんでした。

## ⑤ 時間経過とともに、ニーズの変化⇒運営の変化

いろいろな背景を持った被災者が集まってきます。男性・女性、高齢者、障がい者、幼児、妊婦、外国人、管轄地以外の居住者…。一時的(?)ですが、安全で、衛生的で、安心して生活してもらえるかが、勝負。

- ・**応急期（開設から3日間）**：避難者入居、避難生活開始。命と尊厳を守ることが最優先。  
衛生・健康管理
- ・**復旧期（～7日）**：プライバシー配慮ニーズ高まる。自立支援。昼間は家の片づけ、仕事でいっとき退所が多い。
- ・**復興期（閉所まで）**：応急仮設住宅への引越しなど。トイレ、寝床、食事、プライバシー等の質向上のニーズ、自立支援活動

## ⑥ 避難所運営における女性の役割が重要

総じて、女性の視点を採り入れた避難所運営は、ふいさ医者（？）の安全と快適な生活をサポートするために不可欠です。（避難者の半数は女性です）

### 1. ニーズへの配慮

避難所では女性が直面する特有のニーズ（生理用品、授乳スペース、プライバシー確保など）に配慮する必要がある。

### 2. 心理的サポートとコミュニケーション

女性が災害時にストレスを感じやすいことがあり、避難所での心理的サポート、コミュニケーションが重要。女性同士の交流、支え合いが多くに避難所で行われている。

### 3. 家族や地域も結束

女性は平時から、家庭や地域社会で重要な役割を果たしている。避難所での女性の活動は、家族・避難所内同地域の結束を強化する。

### 4. 女性リーダーの存在

女性リーダーが避難所運営への参加で、女性の声が多く反映されやすくなり、環境改善やニーズへの対応に貢献する。

## ⑦ スフィア基準

紛争や災害の際の避難所環境について、避難者の生命、安全、尊厳、権利を尊重した支援を行うための最低基準を示す国際基準。人道的視点から避難所の運営を考え、被災者の健康を維持するために、日本政府もこの基準（考え方）を活用しています。数量的基準は合致していませんが…

### スフィア基準の例

- ・**居住スペース**：3.5 m<sup>2</sup>/人、世帯毎に十分な囲いのある生活空間。快適な温度・換気と保護の提供
- ・**生存に必要な水**：水道の蛇口1つ当たり利用者250人まで。15リットル/日/人
- ・**トイレ**：避難者20人につき1基は設け、個室は男女別の割合は1対3

※イタリア中部地震：6人用テント約10畳分の広さ、エアコン付き。風呂、トイレのコンテナも。

## ⑧ 参加者からの質問・意見など

### ○ 当拠点の体育館避難所レイアウト図

- ・この図では最大98名しか収容できない。しかも、テントはどこに？
- ・テント（着替え用、授乳用、談話用など）の配置を決めておいてほしい
- ・世帯用スペースの周囲が空間となっており、収容能力上効率が悪い

- ・赤線で通路が指定されているが、その他の通路は通行不可？
- ・上記から、テント位置も含め、レイアウト図の改定図が欲しい
- ・食事ブースのテーブル・イスは、どこから入手できるか、記録を！

### ○ 世帯・個人等スペースの状態

- ・床面に「ビニールシート敷き」だけでは、寝ていられない。寝たら起きられない
- ・毛布や保温シート提供は数量に制限もあるようで、自宅から各自毛布・布団など持ってくることになる。
- ・段ボールベッド（市と業者提携）、囲いの提供は、ぜひ災害時早急に提供を願いたい。
- ・学校の体育館にあるマットは使えるか？（学校と相談となるが、数に限界があり、OK となっても、提供先の優先順位を拠点として決めておく必要アリ）